



第3章 実 施 計 画

〈計画の理念〉

誰もが安心して暮らせる“福祉のまち守山”

目 標

高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり

高齢者の健康と生きがいづくり、助け合いを通じて、人と地域がつながる守山を目指します。

誰もが気軽に楽しく参加できる健康づくりの推進

一人ひとりの生きがいづくりの推進

できることで、持ちつ持たれつ、助け合いの仕組みづくり

障がいがあっても普通に暮らせるまちづくり

障がい児者が日常生活で暮らしていく中での困難を解決し、暮らしやすいまち守山を目指します。

障がい者と健常者、障がい者同士の障がい理解の促進

障がい児者の生活支援（主に余暇・学習）の充実

大規模災害に備えて！災害時の障がい児者見守り支援体制モデル学区づくり

安心して子どもを産み育てられるまちづくり

世代を越えたふれあい、顔の見える地域づくりを推進し、子育てにやさしいまち、守山を目指します。

思春期の子どもがいる親たちへの支援

思春期の子どもたちへの支援

子どもや子育て家庭が住みよい地域づくり

ふれあいにあふれた団地づくり

団地の活性化のため、魅力的な活動や場づくりを進め、区内の団地への広がりを目指します。

ともに笑顔で人づくり

夢につながる場づくり

明日につながる団地づくり

サブタイトル：わたしから始まる助け合い

行 動

No.1 歩こまい!みんなでもりもりウォーキング ウォーキングを通じた健康づくりの推進と閉じこもりの防止

No.2 めざせ!生涯青春!!好奇心応援隊 “語り合い”を通じた仲間づくり、生きがいづくり、社会参加の推進
No.3 集まれ!守山男会 高齢男性の社会参加の促進

No.4 経験はみんなの宝!守山つながり「人×人」バンク 高齢者の豊富な知識・経験・技能を活かした人材バンクの設立

No.5 世界が広がるちょっといいお話会 学校で障がい者やその家族による講話
No.6 まちの駄菓子屋さん 障がい者運営の駄菓子屋で子どもとのふれあい

No.7 遊んで学んではぐくみ隊 発達障がい児の余暇・学習支援ボランティア養成
No.8 きらきらボラさんこの指と〜まれ 新たな支援者の発掘と障がい児者団体のフォロー

No.9 大災害!知り合うことから初めの一歩 災害に備えて障がい児者の生活調査と見守り支援者養成

No.10 お母さん・お父さんサロン 親同士の情報交換・仲間づくり
No.11 子どもの未来を考える大人塾 子育てをみんなで考える地域づくり

No.12 まちの寺子屋 十代の学びの場・しゃべりの場づくり
No.13 みんなでつながろう「友活」 十代の仲間づくり・居場所づくり

No.14 冒険遊び場 遊びを通じた顔の見える地域づくり

No.15 参加してみよう!誰もが気軽にはじめの一歩 参加からつながる担い手づくり

No.16 でかけてみよう!誰もが集える場 思わず参加したくなる交流の場づくり
No.17 団地版!ザ・防災 安心安全マップの作成・活用と生きた防災訓練の実施

No.18 つながろう!支えあおう!ザ・団地 取り組み事例集の作成と団地間交流会の開催

高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり

目標

誰もが気軽に楽しく参加できる健康づくりの推進

行動

No.1 歩こまい！みんなでもりもりウォーキング

～ウォーキングを通じた健康づくりの推進と閉じこもりの防止～

問題意識

- ・高齢者の生活の質を向上させるためには、健康寿命の延伸が重要。
- ・平均寿命と健康寿命の差 男性9.13年 女性12.6年（平成22年）
- ・寝たきりの原因は、脳血管疾患と転倒・骨折で半数を占める。
- ・高齢者の心身状況の悪化は、引きこもりを誘発する。

守山区の状況等

- ・高齢者がこの1年間に行った運動 第1位ウォーキング
- ・高齢者が今後行いたい運動 第1位ウォーキング（文部科学省世論調査平成25年）
- ・充実したウォーキングコース（小幡緑地公園、志段味遊歩道、矢田川河川敷、雨池公園、各種古墳群など）
- ・一般公募で集まった「守山探検隊」のメンバーが、年1回「まちあるきイベント」を開催し、「守山探検隊まちあるきマップ」を作成。

策定メンバーの声

ウォーキングは健康を守るためにいつでもどこでも行える有効な運動です。このウォーキングを各地域において取組むことで地域住民のつながりが深まればと思います。地域で健康学習やトレーニング方法を学んだり、まち歩きマップを利用して守山の史跡を訪ねたりと楽しく歩けるよう工夫をしていきます。地域の方々が誘い合い、支え合い、健康で安心して暮らせる守山を目指します。



大橋 拓幸 さん

用語説明



健康寿命：日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間のこと。

ウォーキング：有酸素運動（酸素を多く取り込みながら、一定の動作をリズムカルに長く持続させる運動）のひとつで、歩くことで健康を促進させる効果がある。



具体的な取り組み

①元気高齢者を対象としたウォーキングの試行実施

【内 容】

元気な高齢者を主な対象としてウォーキングを試行実施。コース設定、効果測定、継続するための工夫など実施上の課題と対象者のニーズを把握する。

【主 体】

健康づくり推進団体

【連携が想定される関係機関・団体】

守山探検隊

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
はつらつにて 試行実施	元気高齢者向け プログラムの実施	継続実施	→ → →	→ → →

※「はつらつ」：名古屋市高齢者はつらつ長寿推進事業

②配慮が必要な高齢者を対象としたウォーキングの実施

【内 容】

ウォーキングをサポートするボランティアを養成し、外に出ることが少なく、歩き慣れていない高齢者向けのプログラムを実施する。

【主 体】

健康づくり推進団体、ウォーキングボランティア

【連携が想定される関係機関・団体】

守山探検隊、いきいき支援センター

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		・ウォーキングボ ランティアの養成 ・虚弱高齢者向け プログラムの実施	継続実施	→ → →

高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり

目 標

一人ひとりの生きがいをづくりの推進

行 動

No.2 めざせ！生涯青春！！好奇心応援隊

～“語り合い”を通じた仲間づくり、生きがいをづくり、社会参加の推進～

問題意識

- ・健康を維持するためには、年齢にかかわらず前向きな気持ちを持ち続けることが重要。
- ・生きがいの喪失は、閉じこもりの遠因になる。
- ・高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯の増加により、高齢者の社会との関係づくりが重要な課題となっている。

守山区の状況等

- ・高齢者向けのたまり場（サロン）数 34ヶ所（平成25年12月区社協調べ）
- ・なごみクラブ（保健所主催のサロン）数 12学区13ヶ所（平成25年度）
- ・高齢者の余暇の過ごし方 園芸・ガーデニング38.7% 読書26.8%
音楽鑑賞 18.2% カラオケ14.9% 美術鑑賞14.4% 映画鑑賞13.7%
写真11.3% 演劇鑑賞 10.6% 日曜大工10.4% 編み物・手芸10.0%（総務省
社会生活基本調査平成23年）

策定メンバーの声

誰かに必要とされる、認められることで人は生きがいを感じることが出来ると思います。それは年をとっても同じです。人に守られ、支えられ、お互いがお互いを支え合うつながりづくりをこの5年間の計画で取り組んでいきたいです。



内匠 弘子 さん

用語説明



ふれあいいきいきサロン：地域での孤立防止、生きがい、仲間づくり等を目的に、高齢者、障がい者、子育て中の親子等が自由に気軽に集まり、地域でいきいきと暮らせることをめざす交流活動。

回想法：過去の出来事に思いを巡らし、楽しく語りあうことを通じて、脳の活性化、意欲向上を目的とする心理療法。治療的回想法、予防的回想法、一般的回想法があり、認知症の予防効果が期待されている。

具体的な取り組み

好奇心応援隊の実施

【内 容】

高齢者の関心の高いテーマについて、お話会や勉強会、体験などを取り入れたプログラムを実施し、高齢者の生きがいづくり、仲間づくりを支援する。

また、プログラムに回想法を取り入れるなど、認知症の人を対象とした取り組みも実施する。

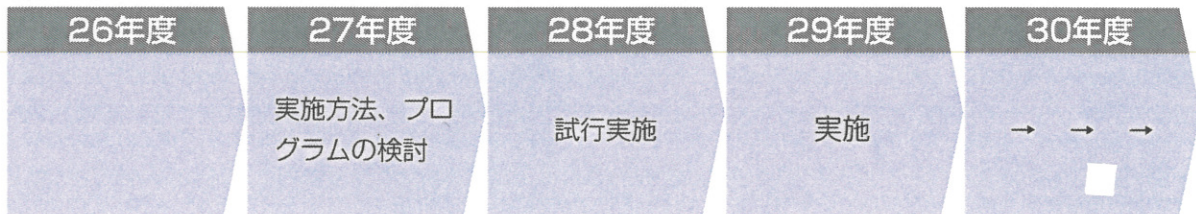
【主 体】

好奇心応援隊ボランティア、民生委員児童委員、対象者の家族

【連携が想定される関係機関・団体】

民生委員児童委員協議会、いきいき支援センター、福祉会館、老人クラブ連合会、鯨城会等

■年次計画



高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり

目標

一人ひとつの生きがいくりの推進

行動

No.3 集まれ！守山男会

～高齢男性の社会参加の促進～

問題意識

- ・ 男性は現役を退いた後、地域社会にうまく溶け込めない場合があり、特にひとり暮らしになった場合、地域社会から孤立する恐れがある。
- ・ 65歳以上ひとり暮らし「他人と会話する機会が2週間に1回以下」
男性16.7% 女性3.9%
- ・ 男性生涯未婚率 男性 15.96% 女性7.25%（2013年国立社会保障・人口問題研究所）

守山区の状況等

- ・ 高齢者向けのたまり場（サロン）34か所中、男性中心のたまり場 2か所
（平成25年12月区社調べ）
- ・ 高齢者はつつつ長寿推進事業の参加者185人中 男性10名（平成26年2月現在）
- ・ 「ぴんころ男会」（※）の結成 月1回開催 登録者 28名（平成26年2月現在）
※平成25年9月に、高齢者はつつつ長寿推進事業の男性参加者を中心に結成

策定メンバーの声

地域の諸活動では、高齢の男性の参加者が非常に少なく感じます。その原因の1つは、人間関係の煩わしさから逃れ、家に閉じこもりがちになるからかと思います。
守山の男性は元気だな！と言われるような取り組みを行っていきたいです。



菅原 敏郎 さん

用語説明



生涯未婚率：50歳時点で、一度も結婚をしたことがない人の割合

孤立死：周囲との交流がない状態が長く継続しており、地域や社会から孤立している状況の中で、誰にも看取られず一人で亡くなること。



具体的な取り組み

①趣味を通じてつながる男会の設立支援

【内 容】

区内の男性高齢者のグループ活動について調査を実施。それを踏まえ、男性の参加しやすいプログラムを考案し、「ぴんころ男会」を基盤として、区内の男性グループ数を増やす。

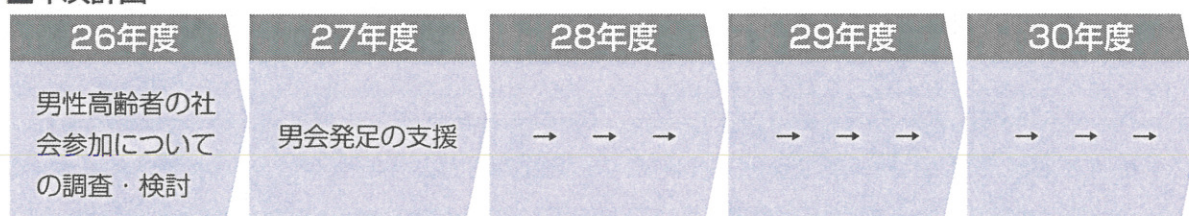
【主 体】

男性高齢者自身（女性にもサポーターとして参加してもらう。）

【連携が想定される関係機関・団体】

民生委員児童委員協議会、いきいき支援センター、既存の男会、老人クラブ連合会

■年次計画



②積極的に活動したい高齢者たちの男会の設立支援

【内 容】

定年後活発に活動している、もしくは今後活動したいと考えている男性高齢者を組織化し、男性高齢者の社会的活動を支援する。

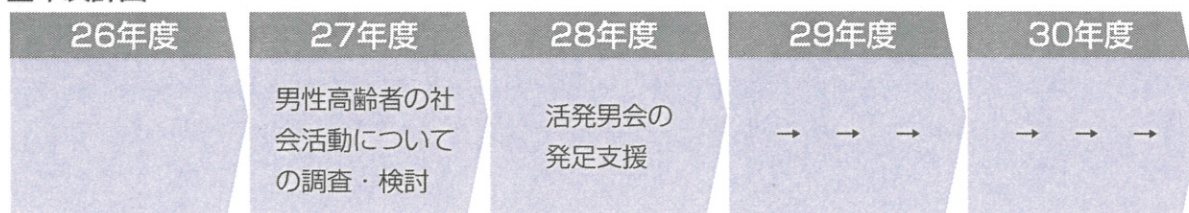
【主 体】

男性高齢者自身

【連携が想定される関係機関・団体】

民生委員児童委員協議会、福祉会館

■年次計画



高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり

目 標

できることで、持ちつ持たれつ、助け合いの仕組みづくり

行 動

No.4 経験はみんなの宝!守山つながり「人×人」バンク

～高齢者の豊富な知識・経験・技能を活かした人材バンクの設立～

問題意識

- ・本格的な高齢社会を迎え、社会の活力を維持するためには、高齢者の社会活動が重要である。
- ・地域社会には、様々な知識、技術や経験を持つ人材が埋もれている。
- ・介護保険改正の理念として、「互助」が標榜されている。

守山区の状況等

- ・老人クラブ数 60クラブ 3,327名（平成25年4月現在）
- ・生活支援ボランティアグループ 8グループ（平成26年2月現在）
- ・まごの手（小修繕ボランティアグループ）活動件数：58件（4.8件/月。平成25年1月～12月。月間最大依頼数10件）

策定メンバーの声

地域に身近にお手伝い出来るグループがあれば持ちつ持たれつ助け合いが生まれます。会って話をすれば知識、経験、技能や得意分野も発見できると思います。助け合いの仕組み作りから高齢者の人材発掘につながります。



田代 京美 さん

用語説明



生活支援ボランティア：買物支援、調理支援、環境整備、安否確認、孤立防止などの支援を行うボランティア

具体的な取り組み

①高齢者人材バンクの設置

【内 容】

高齢者の知識や経験、技能を登録してもらい、社会活動につなげる。

【主 体】

登録者、バンク運営ボランティア

【連携が想定される関係機関・団体】

守山区ボランティア連絡協議会、地域ボランティアグループ、個人登録ボランティア、民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会、鯉城会、区社協ボランティアセンター

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		実施に向けて の検討	実施	→ → →

②登録高齢者によるグループづくり

【内 容】

登録した高齢者によるボランティアグループをつくる。

特に、託児・学習指導の子育て支援、外出時の付添の障がい児者支援など
助け合い活動を進める。

【主 体】

登録者、バンク運営ボランティア

【連携が想定される関係機関・団体】

子育て支援団体、小中学校PTA、子ども会育成連絡協議会、児童館、障がい者
支援ボランティア、障害者地域生活支援センター、自立支援協議会

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
			実施	→ → →

障がいがあっても普通に暮らせるまちづくり

目 標

障がい者と健常者、障がい者同士の障がい理解の促進

行 動

No.5 世界が広がるちょっといいお話会

～学校で障がい者やその家族による講話～

問題意識

- ・ 障害者総合支援法の施行、国連の障害者権利条約の批准など障がい者施策等は充実してきている。
- ・ 一方で、守山区の学校において福祉教育体験学習実施件数や障がい者の学校への参加回数が年々減っており、子どものころから障がいについて理解する環境が少なくなっている。
- ・ 区民の障がいに対する理解が十分でないことを感じる。

守山区の状況等

- ・ 平成22年度と平成24年度の福祉体験学習状況体験学習は9件から3件の－6件、障がい者の参加は6件から2件の－4件となり、減少している。
- ・ 障がいに関する福祉体験学習障がい者の参加状況

	障がいに関する福祉体験学習					障がい者の参加状況						
	車いす	アイマスク	盲導犬	手話	合 計	身 体			知的	精神	他	合 計
						肢体	視覚	聴覚				
H22	3	2	1	3	9	3	1	2	0	0	0	6
H23	2	2	1	1	6	1	0	1	0	0	0	2
H24	2	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	2

・ 障がい者が学校等で話す機会が少ない。・ 守山区における障がい者やその家族によるお話会の実施件数…0件（平成24年度）

策定メンバーの声

- ・ 障がい者本人から、普段の暮らしぶりや困ったことなど、生のお話を聞くことが障がい理解につながりやすいため、将来を担う子ども達にお話をしていきたいと思います。
- ・ 議論の結果、障がいとは「手足のまひ」「目が見えない」でなく、「普通に暮らしていく上でニーズを満たす際の困難」を障がいととらえるようになりました。



左から 荒川浩平さん、寺西美予さん、柏本妙子さん

用語説明

ニーズ：人間が生活を営む上で感じる「満たされない状態」のこと。





具体的な取り組み

①学校でのお話会

【内 容】

障がい者またはその家族が学校に出向き、障がい者の生活に関心を持てるようなお話会を開催し、児童生徒が障がい者とふれあうきっかけをつくる。

【主 体】

障がい者、障がい児者団体、障がい児者関係ボランティアグループ

【連携が想定される関係機関・団体】

小学校・中学校・PTA・民生委員児童委員

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
小学校のモデル校を指定 お話会の試行 実施	お話会講師の 養成・募集 お話会開催 (2校)	→ → → (2名) → → → (4校)	→ → → (4名) → → → (8校)	中学校のモデル校指定

②お話会申込みマニュアル本作成

【内 容】

学校の先生がお話会等を授業等で取り入れやすいようにするために、お話会等の内容や講師情報なども掲載されたマニュアル本とする。

【主 体】

障がい者、障がい児者団体、障がい児者関係ボランティアグループ

【連携が想定される関係機関・団体】

福祉教育体験学習実践校

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
お話会見学	小学生向け マニュアル本 作成チーム	→ → → マニュアル本 完成・配布	→ → → マニュアル本 見直し	中学生向け マニュアル本 作成チーム

障がいがあっても普通に暮らせるまちづくり

目 標

障がい者と健常者、障がい者同士の障がい理解の促進

行 動

No.6 まちの駄菓子屋さん

～障がい者運営の駄菓子屋で子どもとのふれあい～

問題意識

- ・守山区内では多くの障がい児者施設があるが、障がい児者施設との交流イベントに取り組んでいる学校が少ない。
- ・学齢期から障がい者とふれあう機会が、障がい理解には必要不可欠である。
- ・「障がい」＝「援助される立場」でなく、障がい者自身が喜びを感じながら社会貢献活動をする環境を増やしていくことが必要である。

守山区の状況等

・学校と障がい児者施設の交流事業実施状況3校

<平成25年3月現在>

種 別	学校数/区内学校数	交 流 先
小 学 校	1校/21校	守山養護学校
中 学 校	1校/7校	瀬古マザー園（視覚障がい者）
高 等 学 校	1校/3校	一粒荘（身体障がい者）

・障がい児者関係施設・事業数51件

<平成25年3月現在>

種 別	数	種 別	数
障害者地域生活支援センター	2	精神障害者地域活動支援事業	1
デイサービス型地域活動支援事業	3	児童発達支援事業所	10
作業所型地域活動支援事業	1	放課後等デイサービス事業所	10
身体障害者福祉ホーム	1	障害児入所施設	1
児童発達支援センター	1	障害福祉サービス事業所	18

・障がい者自身が運営するお店1件

策定メンバーの声

- ・学校に障がい者との交流事業を実施してもらうことはかなり大がかりなので、学校の外で子どもと障がい者が交流できる事業を考えました。



鈴木 剛延 さん



具体的な取り組み

障がい者運営の「まちの駄菓子屋さん」開設

【内 容】

障がい者施設のイベントなどの開催時や学校の近隣に障がい者施設利用者運営の移動式駄菓子屋を開設することで、学校の児童生徒や地域住民が気軽に寄れ、駄菓子の購入を通して障がい者との交流を深める。また障がい者による社会貢献活動を通して、地域での自立した生活を促す。

【主 体】

障がい者施設

【連携が想定され関係機関・団体】

学校・PTA・民間企業（お菓子提供）

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
障がい者施設 を選定。 駄菓子提供企 業探し	「まちの駄菓子 屋さん」開設	→ → → (3力所)	→ → → (6力所)	→ → → (9力所)

障がいがあっても普通に暮らせるまちづくり

目標

障がい児者の生活支援（主に余暇・学習）の充実

行動

No.7 遊んで学んではぐくみ隊

～発達障がい児の余暇・学習支援ボランティア養成～

問題意識

- ・障がい児者の余暇活動支援が充実していないため、引きこもりやすくなり、社会で活動する意欲を低下させている。
- ・特に発達に障がいのある学齢期の子どもへの学習・余暇活動支援の体制が整っていないため、本人やその親が就労や将来への不安を抱えている。

守山区の状況等

・障がい児者の余暇活動や学習を支援する団体やサービス

<平成25年3月現在>

項目	団体	乳幼児	小学生	中学生	高校生	青年期
福祉団体	身体障害者福祉協会	—	—	—	—	○
	手をつなぐ育成会	○	○	○	○	○
	てんとうむし	○	○	○	—	—
余暇学習	ひなたぼっこ	○	○	○	—	—
	外出支援等ボランティア	—	—	—	—	○
	障がい施設ボランティア（7）	○	—	—	—	○
学習	—	—	—	—	—	—

- ・障がい者施設職員の人手不足により利用者が外出しにくくなっている。
- ・発達障がい児の学習支援団体数0件

策定メンバーの声

- ・発達障がいのある子どもの義務教育終了後の進路、コミュニケーションの困難さによる友達と付き合いの少なさなど、子どもの将来や人間関係についてとても不安を抱えている親がたくさんいます。子どもが小さい頃からコミュニケーションを身につけるため楽しく遊んだり、工作したりする時間や過ごせる場があるといいなと思っています。



左から
小澤勝利さん、加藤淳さん、梶田雅代さん

用語説明



発達障がい：発達障害者支援法には「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」と定義されている。

具体的な取り組み

発達障がい児の遊び・学習ボランティアグループ養成講座

【内 容】

発達障がいのある子どもと楽しく遊び、勉強を教えるボランティア養成講座を開催する。講座終了後、受講者はボランティアグループをつくり、守山区社会福祉協議会研修室や公園等を活用し、定期的に勉強や工作を教え、公園等でいっしょに遊ぶ活動をする。

【主 体】

てんとうむし、ひなたぼっこ

【連携が想定される関係機関・団体】

ボランティアグループ、名古屋市発達障害者支援センターりんくす、守山養護学校、大学、小幡緑地冒険遊び場の会

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
遊び・学習支援 の人材発掘調査	「てんとうむし」 会員向けに学習 支援試行実施	遊び・学習ボラ ンティアグル ープ養成講座	ボランティア グループ結成	ボランティア グループ活動 開始

障がいがあっても普通に暮らせるまちづくり

目 標

障がい児者の生活支援（主に余暇・学習）の充実

行 動

No.8 きらきらボラさんこの指と～まれ

～新たな支援者の発掘と障がい児者団体のフォロー～

問題意識

- ・ 守山区では障がい者が増えているが、障がい児者団体の新入会員が増えず、一部の障がいについては団体が結成されていない。
- ・ ボランティアによる障がい児者の生活支援が継続して活動できる体制づくりが求められている。

守山区の状況等

- ・ 平成20年度と24年度障がい者手帳保持の増加数

	身体障がい	愛 護	精神障がい	合 計
名古屋市	△3,296	2,116	3,016	1,836
守 山 区	5	220	261	486

- ・ 障がい児者団体と障がい児者関係ボランティアグループ数

<平成25年3月現在>

	身 体					知的	精神	発達	重度	難病	全般	合計
	視覚	聴覚	言語	肢体	内部							
障がい児者団体 (セルフヘルプグループ含む)	0	2	0	1	0	1	1	1	0	0	1	7
障がい児者関係VG	7	3	0	0	0	3	3	1	2	0	4	23

- ・ 障がい児者関係施設・事業所、障がい団体、ボランティアグループ
3者合同交流会の開催0件

策定メンバーの声

- ・ 障がい児者が地域で普通に暮らしていくためにはボランティアによる支えや、障がい者同士が集まり悩みや苦しみを分かち合うグループはなくてはならないものです。そのような方たちが継続して活動できるよう応援していきたいと思っています。



障がい児者支援
ワーキンググループのみなさん

用語説明



セルフヘルプグループ：難しい病気を持つなど、同じ問題をかかえている人たちが、思いや体験を話したり聞いたりすることで悩みや苦しみを分かち合い、自分らしく生きていく力を得ようという目的で集まるグループのこと。



具体的な取り組み

障がい児者関係施設・事業所、障がい者団体、ボランティアグループ3者合同交流会の開催

【内 容】

障がい児者関係施設・事業所、障がい者団体・ボランティアグループの3者が一堂に会する交流会を開催し、活動の発表など、情報交換を行うことで「新たな担い手の発見」「既存団体の組織強化」「新たな障がい者団体の結成」につなげる。また各種団体が継続して活動できるよう、3者合同で開催した勉強会も開催する。

【主 体】

障がい児者関係施設・事業所、団体、ボランティアグループ

【連携が想定される関係機関・団体】

守山区自立支援協議会

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
交流会の開催 方法検討	プチ交流会・勉強会開催	→ → →	守山区3者 合同交流会の 開催	→ → →

障がいがあっても普通に暮らせるまちづくり

目 標

大規模災害に備えて！

災害時の障がい児者見守り支援体制モデル学区づくり

行 動

No.9 大災害！知り合うことから初めの一步

～災害に備えて障がい児者の生活調査と見守り支援者養成～

問題意識

- ・自然災害が起きた時、災害要援護者を救出または避難誘導できるのは近隣住民である。地域住民により障がい児者の生活状況の把握や日常的な見守りがほとんどされていないため、自然災害がおこったときに救出できない。
- ・障がい施設利用者と地元住民との顔の見える関係づくりが希薄であるため、自然災害が起きた時、施設が近隣住民に援助を求めることができない。

守山区の状況等

・守山区で日常的に取り組まれている見守り支援活動

<平成25年3月現在>

活 動 者	高齢者	未就学児の世帯	障がい者
民生委員・児童委員	○	○	△（一部）
守山区給食ボランティア	○	×	△（一部）
いきいき支援センター見守り支援員	○	×	×
地域福祉推進協議会	○	×	△（一部）

- ・地元住民と顔の見える関係づくりに取り組み、日常的に施設利用者と近隣住民が交流している障がい児者施設数1件

策定メンバーの声

- ・自分が障がい者であることを世間一般に知られたくないという意識のある人が多いため、障がい児者の生活状況の把握は非常に難しいと思いますが、取り組んでもらえる学区や町内会を探していきたいと思います。
- ・災害時、施設では現行の職員体制で施設利用者をできる限り救助したいと思っていますが、限界があります。災害時において避難所としての機能も考慮しながら住民のみなさんと協力できるところを考えていこうと思います。



左から
水野谷男さん、高桑嘉子さん、辻井朋子さん

用語説明



支え合いマップづくり：住民の支え合いの実態を住宅地図に載せていき、その結果から福祉のまちづくりへの取り組み課題を探し出すこと

具体的な取り組み

①災害時助け合い・住民支え合いマップづくり

【内 容】

災害時に住民同士で障がい児者を助け合えるよう、地域の支え合いの実情を地図に落とし込むことで、手助けの必要な障がい児者世帯への支援方法について検討する。また見守りを希望する障がい者にはお弁当配達など定期的にボランティアや地域住民が関わり、気軽に相談できるようなしくみをつくる。

【主 体】

モデル学区の町内会、民生委員・児童委員協議会、地域福祉推進協議会

【連携が想定される関係機関・団体】

区役所・ボランティアグループ



住民福祉総合研究所のホームページより抜粋

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
モデル学区・町内会の選定、マップづくり勉強会	支え合いマップづくり	→ → → (マップ更新)	モデル学区・町内会以外で支え合いマップづくり	→ → → (マップ更新)

①避難所または障がい児者関係施設でお食事会

【内 容】

避難所や障がい児者関係の施設で地域住民と障がい児者施設の利用者がお食事会を開催することで、日常生活において顔の見える関係をつくり、災害時の助け合いを促す。また災害時における施設や避難所の課題について障がい者と地域住民がお互いに把握し、助け合えるところを考え実行する。

【主 体】

モデル学区内の障がい児者施設・福祉施設周辺の町内会

【連携が想定される関係機関・団体】

区役所

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
モデル障がい施設選定	お食事会で災害時の課題検討	→ → → 地元住民による施設利用者の生活支援活動	モデル施設以外でお食事会開催	→ → →

安心して子どもを産み育てられるまちづくり

目 標

思春期の子どもがいる親たちへの支援

行 動

No.10 お母さん・お父さんサロン

～親同士の情報交換・仲間づくり～

問題意識

- ・ 思春期の子どもとの向き合い方がわからず、悩んでいる親がいる。
- ・ 共働き世帯の増加などもあり、両親とも日々、仕事に追われ、精神的な余裕がない。
- ・ 子ども会の加入者数が減少するなど、親同士の交流の機会が減っている。

守山区の状況等

「サロン」開設数2か所

- ・ ふれあいサロンAnne（アン）（西城会館で月1回程開催）
- ・ 木の子ひろば（社協で月1回程開催）

策定メンバーの声

高齢者サロンや子育てサロンが全地域に広がり、人の心につながるおいを与えていることは、参加者の意見から伺えます。今回は、家族を支えている要の主婦、とりわけ思春期の子どもがいる母親にスポットをあて、これからの地域を育てていけたらいいと思います。



村松 千里 さん

用語説明

思春期：本計画では、小学生高学年から中学生を想定





具体的な取り組み

お母さん・お父さんサロンづくり

【内 容】

親たちが気軽に集う場所「サロン」を開設し、情報交換や交流を行うことで、悩みごとの解決や子育ての自信につなげてもらう。また、趣味活動なども取り入れ、仲間づくりや心のリフレッシュも図る。

【主 体】

サロン参加者（親たち）

【連携が想定される関係機関・団体】

- ・子育て支援グループ
- ・PTA
- ・主任児童委員

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
サロンの調査 既存サロンの 見学等	子育て塾参加者へ 開設の働きかけ	→ → → 3か所開設	→ → → 5か所開設	→ → → 7か所開設（中学 校区で各1か所）

安心して子どもを産み育てられるまちづくり

目 標

思春期の子どもがいる親たちへの支援

行 動

No.11 子どもの未来を考える大人塾

～子育てをみんなで考える地域づくり～

問題意識

- ・ 思春期の子どもとの向き合い方がわからず、悩んでいる親がいる。
- ・ 共働き世帯の増加などもあり、両親とも日々、仕事に追われ、精神的な余裕がない。
- ・ 子ども会の加入者数が減少するなど親同士の交流の機会が減っている。

守山区の状況等

- PTAが小・中学校等で開催する「家庭教育セミナー」
- 市教育委員会が配信する「インターネット講座」
- 区役所、区安心・安全で快適なまちづくりが開催する「青少年健全育成講演会」

策定メンバーの声

子どもの心の声が聞こえてますか？見えていますか？
もっと知ってほしい、子育ての楽しさや大切さ。
親として自分の子どもに何をしてあげられるかを一緒に考えていきましょう。



伊藤 明子 さん

具体的な取り組み

子どもの未来を考える大人塾の開催

【内 容】

子育ての専門家や先輩たちからの話を聴いたり、子育て中の親同士が情報交換することで、自分だけのオンリーワンの子育て方法を見つけてもらう。受講後は、新たなサロンづくりへの取り組みや既存サロンへの参加、地域活動などにつなげてもらうよう働きかけをする。

【主 体】

子育て支援グループ

【連携が想定される関係機関・団体】

- ・子育て支援グループ
- ・PTA
- ・主任児童委員

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
大人塾の開催 1回開催	→ → → 2回開催	→ → → 3回開催	→ → → 5回開催	→ → → 7回開催（中学校区で各1回）

安心して子どもを産み育てられるまちづくり

目 標

思春期の子どもたちへの支援

行 動

No.12 まちの寺子屋

～十代の学びの場・しゃべりの場づくり～

問題意識

- ・学校の勉強に自信が持てない子どもたちがいる。
- ・放課後、勉強したくても、落ち着いて勉強できる場所（環境）が少ない。

守山区の状況等

- ・名古屋市学習サポートモデル事業の実施
生活保護世帯の中学生を対象に3区で実施 ※守山区は未実施
- ・高校・専門学校進学率（平成24年の名古屋市実績）98.1%
※生活保護世帯86.8%

策定メンバーの声

それぞれの家庭環境は、多種多様な中、思春期という子どもから大人へと成長する大切な時期を過ごしている子どもたちの心は、進む方向を探しています。
勉強を点数などにこだわるのではなく、「もう一度、あきらめずにやってみよう！」という、少し戻って自信を取り戻すための支援になればと思います。



洪城 美和 さん



具体的な取り組み

まちの寺子屋づくり

【内 容】

大学生や教員OBが中心となり、学校の授業を基本に、勉強を教える。また、趣味や遊びの時間も取り入れることで、同世代はもちろん、異学年や異世代の交流も図る。

【主 体】

子育て支援グループ

【連携が想定される関係機関・団体】

- ・大学生、高校生
- ・教員OB
- ・主任児童委員
- ・地域福祉推進協議会

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
準備 ※大学生等との 調整など	→ → → 1か所開設	→ → → 検証・希望学区 の募集	→ → → 2か所開設	→ → → 3か所開設

安心して子どもを産み育てられるまちづくり

目 標

思春期の子どもたちへの支援

行 動

No.13 みんなでつながろう「友活」

～十代の仲間づくり・居場所づくり～

問題意識

- ・放課後、塾や習い事、クラブ活動などで忙しい子どもたちがいる一方、暇で誰とどのように過ごしたらよいかわからない子どもたちがいる。
- ・兄弟姉妹がないひとりっ子の子どもたちが増加している。
- ・子どもたちが、安心しておもいっきり遊べる場所が少ない。

守山区の状況等

<平成20年8月調査>

○放課後生活調査～困っていること～（第一生命保険相互会社調査より抜粋）

- | | |
|-------------------|-------|
| ・遊ぶ場所がない | 14.3% |
| ・暇である | 10.2% |
| ・一緒に遊ぶ友だちがいない | 8.7% |
| ・何をして遊んだらいいかわからない | 7.1% |
| ・誰と遊んだらいいかわからない | 3.0% |

策定メンバーの声

地域に（近所に）友だちと遊ぶ場所がない・・・。
時間があっても遊ぶ友だちがいない・・・。
ゲームやスマホ、ラインなどで時間をつぶしている・・・。
そんな子どもたちの現状から出発し、興味のあることや趣味などを通してつながったら、友だちもできて、楽しく生き生きとした時間が持てるのではないかと考えました。そこで、児童館などの場を活用し、子どもたちが主役の楽しい講座などを開催し、友だちづくりを応援できたらいいなと思います。



吉田 恵子 さん

用語説明

友活：本計画で作った造語で、「友だちをいっぱい作ろう活動」の略。





具体的な取り組み

みんなでつながろう「友活」

【内 容】

子どもたちが望む講座を開催することで、子どもたちの仲間づくりや居場所づくりを行うとともに、子どもたちの心身の成長を図る。また、受講後は、地域イベントや施設慰問等につながるよう支援する。

【主 体】

児童館、小幡緑地冒険遊び場の会

【連携が想定される関係機関・団体】

- ・ ボランティアグループ、NPO
- ・ 大学生、高校生
- ・ 主任児童委員
- ・ PTA

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
準備	1か所開設	→ → →	2か所開設	3か所開設

安心して子どもを産み育てられるまちづくり

目 標

子どもや子育て家庭が住みよい地域づくり

行 動

No.14 冒険遊び場

～遊びを通した顔の見える地域づくり～

問題意識

- ・核家族のみならず、夫婦だけの世帯、あるいは単身世帯が増加しているなど、個別化社会の進行。
- ・世代を越えて地域住民同士が交流できる場所や機会が少ない。

守山区の状況等

「冒険遊び場」開設数1か所

- ・小幡緑地冒険遊び場（小幡緑地本園で月1回程開催）

策定メンバーの声

冒険遊び場は、「自分の力で自由に遊ぶ」を大切にしたい遊び場です。現在、子どもたちが自由に遊ぶ場所がどんどん少なくなっています。冒険遊び場活動は、子どもたちの居場所作りとして全国的に広がっている活動です。守山の特色を活かして、子どもたちの活動だけでなく、高齢者や障がい者の活動と一緒に、「誰もがのびのび遊べる場所作り」を大切に活動を進めていきたいと考えています。みなさん、お応援お待ちしております。



中村 真由子 さん

用語説明



冒険遊び場：子どもから大人まで、自由に遊べるよう工夫された遊び場。誰でも気軽に集い交流できる場所で、主に公園などを活用。別名、プレーパークとも呼ばれている。



具体的な取り組み

冒険遊び場

【内 容】

幅広い世代が気軽に集い交流することができる冒険遊び場を開催することで、子ども同士、親同士、世代を越えた仲間づくりを図るとともに、地域の中で顔の見える関係づくりを図る。

【主 体】

地域住民

【連携が想定される関係機関・団体】

- ・小幡緑地冒険遊び場の会
- ・PTA

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
既存の冒険遊び場の調査 ※小幡緑地見学など	2か所開設	3か所開設	5か所開設	7か所開設 (中学校区に各1か所)

②運営者の養成講座

【内 容】

各地域に冒険遊び場を開設するため、運営者の養成講座を開催する。

【主 体】

小幡緑地冒険遊び場の会

【連携が定される関係機関・団体】

- ・小学校
- ・PTA
- ・主任児童委員

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
講座の開催(1回) 受講生へ開設の働きかけ	1回開催 → → →	2回開催 → → →	2回開催 → → →	3回開催 → → →

ふれあいにあふれた団地づくり

目 標

ともに笑顔で人づくり

行 動

No.15 参加してみよう！誰もが気軽にはじめの一步

～参加からつながる担い手づくり～

問題意識

- ・自治会等、地域役員及び担い手に対する引き受けたがらない傾向が高まっている。
- ・地域役員になると、その他の充て職を担うことも多く、負担感がある。
- ・自治組織や担い手の役割に対する適切な情報が周知されていないことが原因で地域活動参加者が減少している。

守山区の状況等

守山区内の団地における担い手の募集方法（区内の一部団地を抜粋）

<平成26年3月現在>

団地名	規 模	自治会役員	団地内で活動するボランティア
市営本地荘	35棟 1,625戸	推薦、輪番制、くじ引き	公募、口コミ
市営緑ヶ丘荘	21棟 550戸	輪番制、くじ引き	前副棟長、有志立候補
県営幸心住宅	10棟 278戸	輪番制、くじ引き	公募、口コミ
UR 瀬古団地	8棟 282戸	推薦、輪番制	有志立候補

※団地の規模に関わらず、役員選出は、輪番制、くじ引きによるところが多い。

策定メンバーの声

ボランティアって何するの？お互いの思いやり、支え合いが必要です。誰でも参加して、そこから人がつながっていけるように。老若男女、親子で参加してボランティアの良さを分かってもらい、5年後、10年後、未来へつながっていくきっかけになれば一。と思いながら、日々の出会いが参加の糧になっています。



黒瀬 順子 さん

用語説明



自治会：地域に住む人たちが、住みよいまちづくりを目指して、課題解決に取り組みながら、住民の連帯意識の向上に努めている任意団体

学区連絡協議会：小学校区ごとに各種団体で構成され、行政関係の広報や要望の取りまとめやさまざまな課題についての協議や地域活動を実施する任意団体



具体的な取り組み

①参加者から担い手へ移行するための環境整備

【内 容】

それぞれの団地色に合わせた、住民の誰もが楽しめる「まつり」などイベントを開催し、第一歩は参加者として活動を知ってもらい、その先に担い手として関わってもらえるような環境を整えていく。

【主 体】

自治会、学区連絡協議会、学区地域福祉推進協議会、有志の団地住民

（子どもや外国人含む）

【連携が想定される関係機関・団体】

行政機関、イベント関連業者

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
モデル団地での イベント開催	→ → → 担い手へ移行の 働きかけ	→ → → 新たな団地の検 討・準備	→ → →	見直し・今後へ の活かし方検討

②イベントごとの新たな運営組織立ち上げ

【内 容】

既存の自治組織が呼びかけ人となり、「〇〇委員会」、「〇〇プロジェクトチーム」など、新たなイベントに向けた有志の運営組織構成メンバーを募る。

【主 体】

自治会、学区地域福祉推進協議会

【連携が想定される関係機関・団体】

団地取り組み実践グループ

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
モデル団地にお ける組織づくり の検討・準備	イベント実施・ 新たな団地での 拡大の検討	新たな団地での 準備・実施	→ → →	見直し・今後へ の活かし方検討

ふれあいにあふれた団地づくり

目標

夢につながる場づくり

行動

No.16 でかけてみよう!誰もが集える場

～思わず参加したくなる交流の場づくり～

問題意識

- ・多くの団地において、団地内に集会施設が整備されている一方で、団地住民の誰もが参加しやすい居場所、機会が不足している。
- ・団地住民同士の交流は、共同清掃、サロンなどの参加がきっかけとなる場合が多いが、楽しみにしている人ばかりでなく、外に出て交流する気持ちにならない方も多い。

守山区の状況等

- ・市営、県営の団地は、基本的に月に1回程度の共同清掃を実施しており、住民同士の交流の機会となっているが、高齢化により身体的に清掃活動が困難な人が増加している。
- ・守山区内団地における日常的な住民同士の交流の場（守山区社会福祉協議会調べ）

<平成26年3月現在>

取りくみ	数
ふれあい・いきいきサロン	4
共同清掃	27
老人クラブ活動	8

策定メンバーの声

誰もが参加しやすいお祭り型のイベントやサロンなどの開催によって、地域での孤立・閉じこもりの防止、健康・生きがいづくり、世代や国籍を超えた地域住民との交流や仲間づくりが図られるきっかけとなり、少子高齢化により衰退していく団地の活性化につながっていけばと願っています。



左から 中島 砂織 さん、奥野 喬朗 さん、鷲見 友宏 さん

用語説明



ふれあい・いきいきサロン：地域に住む人たちが身近な場所に集まり、みんなで内容を決めて運営していく、楽しい仲間づくりの活動（または場）



具体的な取り組み

①季節に合わせた楽しいイベントの開催

【内 容】

桜まつり、秋まつり、クリスマス会など皆が楽しめるイベントを開催し、環境の違う住民同士が触れ合う機会を設ける。自然にあいさつを交わすことができる関係を築いていく。

【主 体】

自治会、学区連絡協議会、学区地域福祉推進協議会、有志の団地住民グループ（子どもや外国人含む）

【連携が想定される関係機関・団体】

イベント関連業者、行政機関

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
モデル団地でのイベント検討・準備・開催	→ → → 新たな団地の検討・働きかけ	新たな団地での準備・実施	→ → →	見直し・今後への活かし方検討

②既存のサロンなど、居場所における内容の拡充

【内容】

「サロン」などの開設時に、子育て関連プログラム、高齢者対象のプログラム、音楽、料理、舞踊、趣味の講座、勉強会などを取り入れ、多様化することで、より多くの人の参加を促す。

【主 体】

サロン等居場所運営グループ

【連携が想定される関係機関・団体】

各種講座・プログラムの実践グループ

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
モデル団地での検討、実施	→ → → 新たな団地の検討・働きかけ	新たな団地での準備・実施	→ → →	→ → → 評価

ふれあいにあふれた団地づくり

目 標

夢につながる場づくり

行 動

No.17 団地版!ザ・防災

～安心安全マップの作成・活用と生きた防災訓練の実施～

問題意識

- ・団地内で支援が必要な人、支援ができる人に関する情報不足により、災害など緊急時における住民同士での支援活動が困難。
- ・学区での防災訓練は、団地に特化したものではないため、団地における緊急時を想定した適切な訓練にはなっていない。

守山区の状況等

守山区内の団地における防災関係の活動実施状況（区内の一部団地を抜粋）

<平成26年3月現在>

取り組み	団 地 名
避難訓練	（市営）本地荘、緑ヶ丘荘、（UR）瀬古団地
防災名簿作成	（市営）本地荘
安心安全マップ作成	なし

策定メンバーの声

南海トラフ巨大地震の発生が危ぶまれる中、東日本大震災の教訓や情報を生かしながら、多くの人達の考えを反映した防災対策をします。近隣関係の希薄化による問題点も明らかになってきました。住民への理解促進に始まり、災害救援名簿や共助力マップの作成、連絡方法・存否確認方法の整備、災害時に生かされる避難訓練の実施、3日間の飲食料・医薬品等の備蓄など、「迅速」「連携」「わかりやすさ」を主眼として取り組みます。



小澤 勝利 さん

用語説明



安心安全マップ：災害等の緊急時に地域の中で危険となる場所や安全な場所はどこか、支援者が必要な人や支援ができる人は誰か、その他どのような地域課題が発生するかを、地域の誰もが簡単に見て把握し、共有できるようマップにしたもの。



具体的な取り組み

①安心安全マップの作成

【内 容】

災害等の緊急時に、地域の中の危険な場所や安全な場所、支援が必要な人、支援ができる人など地域の情報を誰もが見て簡単に把握できるマップを作成し、支援活動に活用できるようにする。

【主 体】

自治会、団地内助けあい組織

【連携が想定される関係機関・団体】

行政機関、いきいき支援センター、障害者基幹相談支援センター、介護保険事業所

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
モデル団地住民へのマップづくりの啓発	住民環境の把握・作成	新たな団地へマップ作成の働きかけ	新たな団地での準備・作成	見直し・今後への活かし方検討

②防災訓練の実施

【内 容】

団地という環境で、あらゆる住民の命がつながるよう、迅速で安心できる生きた避難訓練を実施する。

【主 体】

自治会、団地内助けあいグループなど

【連携が想定される関係機関・団体】

消防署、日本赤十字社、市港防災センター

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
モデル団地での防災訓練に向けた協力体制づくり	準備（内容決定・関係機関との調整）・実施	→ → → 新たな団地への働きかけ	→ → → 新たな団地での準備・作成	→ → → 見直し・今後への活かし方検討

ふれあいにあふれた団地づくり

目 標

明日につながる団地づくり

行 動

No.18 つながろう!支えあおう!ザ・団地

～取り組み事例集の作成と団地間交流会の開催～

問題意識

- ・団地間では、担い手同士の交流機会不足により、課題が生じた際の解決に向けたノウハウやアイデアの共有が困難。

守山区の状況等

守山区内の公営住宅などの設置数

<平成26年3月現在>

種 別	名 称	数
市営住宅	(9荘) 大森、喜多山、瀬古、瀬古東、第一香流、本地、松坂、緑が丘、向台、(4シティファミリー) 小幡北、小幡駅前、小幡宮ノ腰、エコビレッジ志段味	13
県営住宅	(住宅) 天子田、大森向、守山、小幡宮ノ腰、喜多山西、幸心、新守山第2、黒石東、三軒家、三軒家第2、山下、高坪、町南、喜多山、牛牧南、牛牧北、新守山、吉根	18
UR(都市機構)	アーバンラフレ小幡、瀬古、守山	3

うち、現在、団地ワーキンググループに参加等により、他団地と情報交換を行っているのは4団地(市営:緑が丘、本地、県営:幸心、UR:瀬古)にとどまる。

策定メンバーの声

入居する住民同士の関係の希薄化が問題となって
 久しい団地の中で、あいさつを交わしあい、支え合
 う環境づくりが望まれています。次のステージでは、
 団地同士がつながり合う境へ。やがて守山区中がふ
 れあいにあふれた団地でいっぱいになる!これがメ
 ンバー全員の願いです。



団地ワーキンググループのみなさん

用語説明



市民活動推進センター: 市民活動を推進するための総合的な支援拠点。市民活動についての
 情報発信・交流・講座などを通じて市民活動のサポートを行う。



具体的な取り組み

①アイデアブックの作成

【内 容】

他の団地での課題解決の参考になるよう、現在、課題解決の取り組みを行っている団地の事例を集めて掲載したアイデアブックを作成する。

【主 体】

守山区内の団地における取り組み実践グループ

【連携が想定される関係機関・団体】

自治会、市民活動推進センター

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
取り組み団地の調査（アンケートなど）	事例の取りまとめ・作成	アイデアブックの周知	追加の取り組み調査	追加の取り組み分取りまとめ

②団地間横断交流会の開催

【内 容】

各団地で、課題を解決してきた担い手同士による団地間交流を開催し、顔の見える関係づくりを行い、いざという時に協力し合えるようにする。

【主 体】

守山区内の団地における取り組み実践グループ

【連携が想定される関係機関・団体】

自治会、守山区外の団地における取り組み実践グループ

■年次計画

26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
取り組み団地の調査	守山区内の団地へ案内交流会開催	広報活動の促進（推進協研修会等）	拡大版交流会開催準備	拡大版交流会開催

3

計画の推進・評価体制

(1) 計画の推進

計画の推進は、「推進チーム」が行います。「推進チーム」は、策定時のワーキンググループのテーマを引き継ぎ、計画の推進を行う実践部隊です。運営は、策定に関わった作業部会委員や関心のある区民のみなさま、計画の推進に必要な関係者により行います。

また、それぞれのチームが推進状況を共有し、連携・協力して計画の推進にあたるよう「合同推進会議」を開催します。

(2) 計画の評価

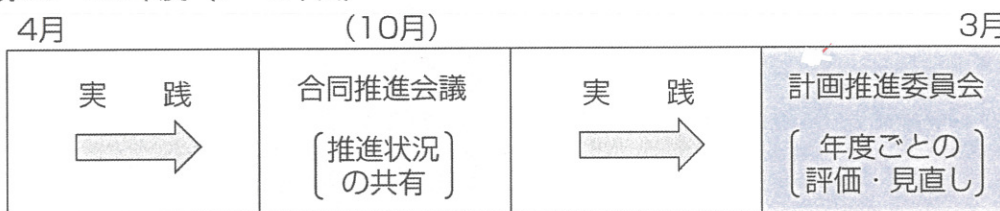
計画の推進状況の確認と評価を行うため、年1回、「計画推進委員会」を開催します。委員会の構成は、学識経験者及び推進チームのメンバーとします。

計画期間の初年度から3年目に当たる平成26年度から28年度は、年度ごとの推進状況について評価し、必要に応じて次年度以降の年次計画の見直しを検討します。

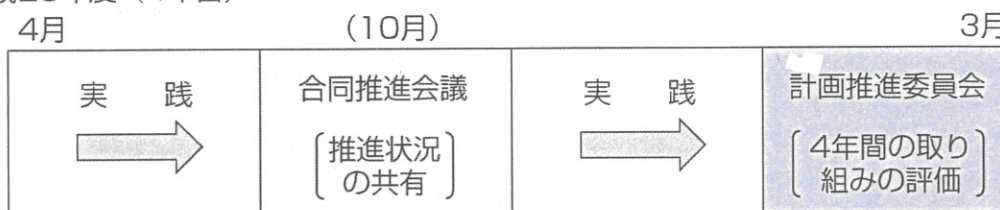
計画期間の4年目となる平成29年度には、それまでの4年間を通した推進状況の評価を行い、その結果を次年度（平成30年度）に行う次期活動計画の策定に反映します。

<計画の推進・評価の進め方>

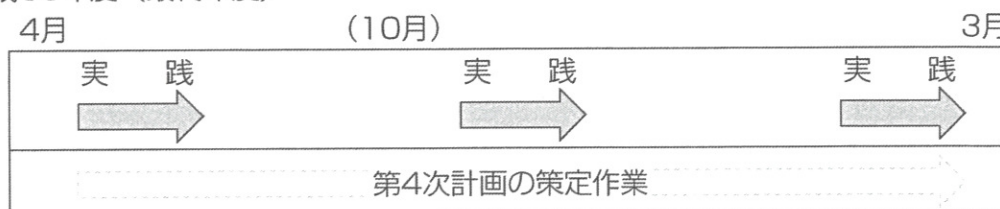
■平成26～28年度（1～3年目）



■平成29年度（4年目）



■平成30年度（最終年度）



※計画期間の最終年度（平成30年度）は、計画5年間の取り組みを踏まえながら、第4次計画の策定作業にあたります。